

【平成20年度事業報告書】

1. 需要開拓事業

1. 収支決算額

○収入決算額:163,685,006 円 (予算額:150,288,000 円)

(事業収入 163,685,006 円)

●支出決算額: 34,976,417 円 (予算額: 38,448,000 円)

2. 事業の成果

- ・展示・即売事業では、消費者ニーズに合わせた市場性のある販売品目の品揃え及び地場産品の良さを県内外の消費者に PR することに努めると同時に、自主イベントの開催と各種イベントに積極的な参加を行う中で、消費者の購買動向など情報収集と地場産品の PR により販路拡大を図った。
- ・体験工房運営事業では、5 工房(計 9 回)の教室を企画開催し、163 名の参加があった。また、産業体験ツアーによる包丁研ぎ教室を県内外からの来館者に対し開催し、地場産品の良さとして「ものづくりの町」としての観光 PR 活動を行った。
- ・貸館事業では、業種・地域を越えた各種団体・企業等への積極的な営業活動により、前年度を上回る貸館収入を計上し、事業収入の増加に大きく貢献できた。

3. 実施事業

(1) 展示・即売事業

(収入決算額:75,066,292 円、支出決算額:19,706,084 円)

- | | | | |
|----------|------------------|-------------|--------------|
| ①展示 | 346 小間 | 収入 | 7,242,730 円 |
| ②即売 | 売上 183,127,572 円 | 収入 | 66,653,562 円 |
| ③年末刃物特価市 | 小間料収入 | 1,170,000 円 | |

【自主イベント等の内容】

イベント名称	開催期間	来場者数
GW フェア	H20.5/3~6 (4 日間)	約 6,700 名
お盆フェア	H20.8/13~17 (5 日間)	約 15,500 名
年末刃物特価市	H20.12/5~7 (3 日間)	約 10,000 名
観光バス昼食・立寄り	通 年	約 1,000 台

(2) 燕三条駅観光物産センター事業

(収入決算額:16,489,892 円、支出決算額:12,552,370 円)

- | | | | |
|-----|-----------------|----|--------------|
| ①展示 | 225 小間 | 収入 | 3,933,902 円 |
| ②即売 | 売上 34,380,684 円 | 収入 | 12,555,990 円 |

(3) 体験工房運営事業

(収入決算額:147,000 円、支出決算額:231,264 円)

開催日	工房名	対象者	参加者(名)
5 月 4 日	陶芸教室	小学校 4 年生以上	21
5 月 5 日	陶芸教室	小学校 4 年生以上	18
8 月 15 日	手乗り竹トンボづくり	小学生以上	27
8 月 16 日	手乗り竹トンボづくり	小学生以上	16
8 月 17 日	そば打ち体験教室	小学生以上	14
12 月 6 日	包丁研ぎ教室	刃物を扱える方	16
12 月 6 日	竹細工房	小学校 4 年生以上	15
12 月 7 日	包丁研ぎ教室	刃物を扱える方	15
12 月 7 日	竹細工房	小学校 4 年生以上	21
小 計			163
観光バス包丁砥ぎ体験		一 般	302
合 計			465

(4) 貸館事業

(収入決算額:71,981,822 円、支出決算額:2,486,699 円)

【会場利用状況】

・施設利用者数:276,062 名(前年度:259,791 名)

・施設利用率: (単位:%)

	平成 20 年度	平成 19 年度
メッセピア		
1F:多目的大ホール	33.62	34.00
4F:大会議室	41.31	42.31
4F:特別会議室	13.54	15.95
4F:小会議室(和室)	35.54	39.54
5F:総合研修室	43.99	43.12
5F:ミーティングルーム	56.87	62.08
リサーチコア		
6F:研修室	35.83	30.85
7F:マルチメディアホール	29.39	28.46

2. 企業支援事業

1. 収支決算額

○収入決算額:39,995,548 円(予算額:39,809,000 円)
 (国補助金 10,590,718 円、県補助金 2,109,000 円、市負担金 23,306,000 円、
 事業収入 2,214,830 円、予備費 1,775,000 円)

●支出決算額:36,917,169 円(予算額:39,809,000 円)

2. 事業の成果

- ・世界的な景気減速の中で地域への受注促進を推進し、50 件の成約が確定した。また、交渉継続中の案件も含め、受注斡旋件数 578 件を得ることができた。
- ・企業において IT を有効活用できるよう、企業向けパソコン講座(6 回 103 名参加)、Web 関連講座(3 回 53 名参加)を開催した。
- ・最新の企業支援情報や県央地域の新製品、注目商品等をセンターホームページから情報発信を行い、IT 関連の相談では、19 件、33 回の相談・支援を行った。
- ・平成 20 年 9 月に経済産業省から委託を受け、親元である(社)日本セルフサービス協会が実施する事業に参加して、農業生産者・食品加工、製造業の中小規模な企業等にインターネットを使った販路開拓・販路拡大の支援を行うと共に、自主事業として Web 講座、講演会、デザイン相談等を開催し、BtoC サイトへの理解・スキルアップや問題解決の支援を行った。

3. 実施事業

(1) 企業支援事業

○収入決算額:13,990,000 円(予算額:14,040,000 円)

●支出決算額:13,020,660 円(予算額:14,040,000 円)

①受注促進事業

1) 企業訪問による受注促進

県外企業訪問を中心に地域企業技術を PR。受注促進と新分野開拓を推進した。

i) 引合い件数

	受注斡旋(件)				引合い 件数	各種 相談
	成約	見積 依頼	対応企業 紹介	不成約		
平成 20 年度	50	89	427	12	578	234
平成 19 年度	67	79	503	25	674	261

ii) 企業との受発注打合せ件数

	地域内 (市内) 企業訪問	地域外 (県内) 企業訪問	県外企業 出張訪問	県内企業 来室 打合せ	県外企業 来室 打合せ
平成 20 年度	515	56	154	272	213
平成 19 年度	455	83	137	331	121

2) 販路開拓アドバイザー活動

首都圏における受発注促進事業を効率的に進めるため、3 名のアドバイザーを委嘱し、展示会での販路開拓などの活動を行った。

②地域産業・技術 PR 事業

各地で開催された産業技術見本市に出展。地域企業製造サンプル・新商品等を展示 PR し、受注拡大を図った。

1) 見本市への出展

出展した展示会名称	開催期間	入場者数	各種照会件数
第 12 回 機械要素技術展 (東京展)	6/25～6/27	87,679	56
第 11 回 関西機械要素 技術展	10/1～10/3	32,259	35
航空宇宙産業技術展	11/27～11/29	10,401	49
第 13 回 おおた工業フェア	2/19～2/21	8,923	67

2) 登録企業約 500 社へ向け、受発注情報「産業振興部ニュース」の発行。(隔週)

3) 新聞・展示会出展者名簿への地域技術 PR 広告の掲載。
(日刊工業新聞に掲載)

③専門家派遣事業

地域企業が抱える課題解決のため、専門家を直接企業へ派遣して助言を行った。指導回数:37 件(25 社)、指導者数:19 名

④異業種交流グループ活動支援

- ・グループ登録数 21 グループ
- ・異業種交流プラザ利用状況 192 日(305 回)

2. 企業支援事業

⑤ ローカル支援センター事業(県補助事業)

1) 特許ビジネス市の開催

((独)工業所有権情報・研修館、新潟県との共催)

当地域に関連する特許技術シーズを有する企業より 5 テーマの「ビジネスプラン」を発表し、地域企業とのマッチングを目的に開催した。

- ・開催日時 平成 20 年 10 月 8 日(水) 13:30~17:00
- ・参加者数 54 名(40 社)

2) 金属と漆の融合事業

金属素材と漆との組み合わせにより和の個性を表現した製品開発を進める中で、金属と漆の剥離性などの問題解決のための基礎研究を実施した。

(2) 産業技術ネット構築事業

○収入決算額:3,532,000 円 (予算額:3,532,000 円)

●支出決算額:3,285,889 円 (予算額:3,532,000 円)

首都圏の積極性あふれる個性豊かな中小企業が出展する展示会「テクニカルショウヨコハマ 2009」に販路開拓アドバイザと連携しながら首都圏企業に対して情報発信、ひいては新規取引先の開拓・企業間連携の実現を目的に地元企業 4 社とともに共同出展し、当地域の特徴的な加工サンプル及び製品を展示し、技術 PR を行った。

出展後、具体的・技術的取引へ向け、販路開拓アドバイザと連携を取りながらフォローアップ活動を行った。

展示会名称	テクニカルショウヨコハマ 2009		
会期	平成 21 年 2 月 4 日(水)~6 日(金)		
会場	パシフィコ横浜		
入場者数	32,928 人		
実績	商談成立	1 件	
	見積依頼	26 件	
	図面検討依頼	1 件	
	企業紹介	18 件	
	その他(名刺交換等)	359 件	

(3) 支援情報事業

○収入決算額:11,574,830 円 (予算額:10,462,000 円)

●支出決算額: 9,688,269 円 (予算額:10,462,000 円)

① 企業向けパソコン講座の開催

研修事業名	回数	参加人数	開催時期
1.「すぐ使える Excel 活用講座 (製造業編)」 昼コース	6	12	4/8 ~ 4/28
2.「すぐ使える Excel 活用講座 (製造業編)」 夜コース	6	21	4/8 ~ 4/28
3.「Excel で行う経営管理分析講座」 販売編コース	6	19	7/22 ~ 8/7
4.「Excel で行う経営管理分析講座」 生産編コース	6	13	8/19 ~ 9/4
5.「Power point (入門)講座」	3	19	10/21~10/28
6.「Access 基礎講座」	8	19	1/14 ~ 1/30
合 計	35	103	

1~4 講師:タナカビジネスブレン

5 講師:IT サポーター 田辺 信一

6 講師:(株)パジュブレン

② Web 関連講座の開催

研修事業名	回数	参加人数	開催時期
1.「SEO(検索エンジン最適化)対策セミナー」	4	14	12/2~12/12
2.「画像編集基礎講座」 ①	4	19	2/10~2/20
3.「画像編集基礎講座」 ②	4	20	3/3 ~ 3/13
合 計	12	53	

1 講師:イーンスパイア(株)

2~3 講師:IT サポーター 田辺 信一

2. 企業支援事業

③情報関連機器の貸出

貸出機器名	貸出件数	料金(円)	備 考
パソコン	50	786,000	情報研修室、貸出し用 PC
プロジェクタ 他	20	58,000	

④研修・教育用ビデオテープの貸出し

・貸出し件数 50 件 ・貸出し本数 247 本

⑤メールマガジンの発行

・毎月 2 回 年間 24 回配信 ・掲載情報件数 355 件
 ・3 月末メルマガ配信登録数 580 件

⑥書籍・資料・文献等の閲覧

各種技術、情報等に関する図書や文献を収集し、資料室に整理し閲覧に供した。

⑦三条市・燕市兼用の産業カレンダーの発行

A3 版 3,200 枚、カード版 5,600 枚を作成し頒布した。

⑧情報ピックアップの作成

定期刊行物(新聞・雑誌・専門誌等)から企業ニーズにあった記事を拾い出し、整理分類して Web 情報システムに登録した。

⑨ビジネス情報等の提供

センターホームページから、企業向けの支援情報、イベント、セミナー等のビジネス情報やセンター主催事業の年間スケジュールを掲載した。

・ビジネス情報掲載件数 355 件

⑩IT 関連の企業相談(IT サポーター支援)

・相談申込み事業所等 19 件 ・相談回数 33 回

⑪新商品、注目商品紹介の紹介

県央地域企業の新商品や注目商品をホームページから毎月数品紹介。

・年間紹介商品数 24 品

(4) 地域産品 IT 販路開拓支援事業

にっぽん e 物産市プロジェクト(地域商社機能の検証・三条地域)

○収入決算額:10,898,718 円 (予算額:11,775,000 円)

●支出決算額:10,922,351 円 (予算額:11,775,000 円)

①(社)日本セルフサービス協会が実施した事業への参加

1) 実売モニタリングへの参加

3 回実施(1 回目:10 月中旬、2 回目:11 月中旬、3 回目:12 月中旬)

・消費者モニタリングの商品評価

モニターから商品の試食をしてもらい商品評価を受けた。

(モニター商品:4 商品)

・店頭販売の参加

スーパーマーケットの一角を提供してもらい、商品を陳列してセルフ販売を行った。4 店舗(紀伊国屋吉祥寺店・鎌倉店、マルイ志木店・国分寺店)で実施。

(陳列商品:車麩、販売数 166 袋)

・試食販売の参加

スーパーマーケットの店頭で試食販売を行った。1 店舗(紀伊国屋鎌倉店)で実施。

(試食商品:うさぎしゃぶしゃぶもち小袋パック、販売数 105 袋)

2) Web モニタリングへの参加

インターネットでモニターを募集し、モニターから試食していただき、商品評価を受けた。

(モニター商品:米めん、モニター対象者数:80 名)

3) 個別商談会への参加

首都圏のバイヤーと商談を行った。(商談参加企業数:3 企業)

開催日:平成 21 年 1 月 28 日(水)

会場:台東区立台東区民会館

4) スーパーマーケット・トレードショーへの参加

スーパーマーケット関係者を中心にした食品流通業界の専門展示会に出品した。(出品商品数:13 商品)

開催日:平成 21 年 2 月 11 日(水)~13 日(金)

会場:東京ビックサイト東ホール

成約実績:成約 1 件、商談 2 件、資料請求 5 件、名刺交換 58 件

5) 人材教育研修への参加 6 回(18 日間)

2. 企業支援事業

②センター独自事業

- 1) 「売れる燕三条ブランド商品づくりサポート会議」の開催
委員数:12名

回	開催日	出席数
1	H20.10.22	7
2	H20.11.18	7
3	H20.12.19	8
4	H21. 2.19	7

- 2) 「初心者のためのインターネット&メールとブログの入門」講座の開設
開催日:11/21、11/25、11/28、12/2、12/5の全5回
講師:ITサポーター 田辺 信一
受講者:18名

- 3) 「売れる燕三条ブランド商品づくりサポート会議」講演会の開催
農業生産者、食品加工業、製造業等の中小規模の企業から地域産品の“発掘からマーケティングまで”の魅力ある商品づくりをテーマに開催。

・第1回 講演会

開催日:平成20年12月17日(水)

講演テーマ1:講演1「消費者にとって魅力ある商品づくりとは何か」

講師:(財)いがた産業創造機構

食品産業育成プロジェクトマネージャー

新事業育成メンター 西原 昌男

講演テーマ2:「適正な商品表示のための基礎知識」

講師:(株)消費経済研究所品質管理センター

研究員 福地 祐治

参加者数:36名

・第2回 講演会

開催日:平成21年1月20日(火)

講演テーマ:「成功事例でみる売れる特産品のブランドづくり」

講師:(有)マイティー千葉重 代表取締役 千葉 大貴

参加者数:122名

3. 技術高度化支援事業

1. 収支決算額

○収入決算額:20,037,650円(予算額:18,820,000円)
(内田エネルギー科学振興財団助成金800,000円、市負担金12,904,000円、事業収入6,333,650円)

●支出決算額:17,382,255円(予算額:18,820,000円)

2. 事業の成果

- ・技術研修を6講座行い、延べ157名(定員115名)が受講した。また現場管理及び航空機産業参入のセミナーを行い、延べ89名の参加があった。
- ・ものづくり技術交流展を実施し、2,010名が来場し、多くの開発や技術連携のきっかけを作った。
- ・学生を対象としたビジネスプランオーディションを行い、19件の提案の中から1件の最優秀賞、2件の優秀賞などを選定し、フォローを行った。
- ・非鉄材料の技術研究会など5つの研究会を組織し、会員数は延べ128名で合計27回の研究会を行った。

3. 実施事業

(1) 企業人材育成事業

○収入決算額:2,708,000円(予算額:2,000,000円)

●支出決算額:1,700,484円(予算額:2,000,000円)

①技術研修事業

研修事業名	回数	募集人数	実績人数	開催時期
1.金属材料基礎講座	12	20	27	5/21～8/6
2.図面の見方・描き方入門講座	12	20	33	8/18～10/2
3.機械設計基礎講座	12	15	12	6/6～9/11
4.プレス加工集中講座	3	15	34	12/6～12/18
5.プラスチック成形技術講座	3	10	19	11/19～12/3
6.基礎から学ぶ特許出願講座	3	10	9	11/17～11/25
合計	45	90	134	

②管理者養成研修事業

地域企業の生産管理や経営手法を学ぶため、ファインセンター三信(株)代表取締役社長の島田一男氏を講師に迎え、「中小企業における現場改善と経営」セミナーを行い、23名が聴講した。

また、厳しい品質管理で知られる航空機産業への参入を検討するため、航空機産業参入研究会及び特別講演会を開催し、29社39名が研究会に入会し、聴講者は66名であった。高い反響があり、今後は独立の研究会として進めて行く。

3. 技術高度化支援事業

(2) 技術支援事業

○収入決算額:14,125,650 円 (予算額:13,616,000 円)

●支出決算額:12,629,880 円 (予算額:13,616,000 円)

①新技術・新材料応用研究会(地域企業 25 社 28 名)

主に鉄鋼系材料を中心に、プレス技術や金型技術などで優れた技術を持つ企業による合計4回の講演会を行った。またオープンセミナーとして、溶接学会と共催でステンレス材料の溶接施工技術の講習会を行い、101名が受講した。

②専門家及び技術職員による企業指導、コーディネート

プレス加工や機械設計等に関する技術相談について、専門の技術者による合計7回の技術指導を実施した。併せて職員は72件の技術相談に対応した。

③知的所有権相談事業

ジーベック国際特許事務所の所長で弁理士の清水善廣氏を相談員に招聘し、特許、実用新案、商標、意匠などの知的所有権について、合計31回(19社)の相談を行い、特許や商標などの出願・登録に繋がった。

④ものづくり技術交流展の開催

当地域企業と先端技術を有する地域外の企業や大学などのマッチングを行うため、平成20年11月6日(木)・7日(金)の2日間に渡って展示会を開催した。出展者は、61団体(企業48、各種団体5、研究機関2、教育機関6)で、2日間の入場者数は2,010人であった。会期中は展示会場での技術移転や交流連携に加え、出展企業による出展者プレゼンテーションやシステムインテグレーション(株)代表取締役の多喜義彦氏による特別講演会(聴講者120名)及び出展大学のシーズプレゼンテーションを行い、地域企業の新技術導入や連携促進を進めた。

⑤ビジネスプランオーディション事業

学生が燕三条地域に関連するビジネスプランを考えることで、当地域の関心を深めるとともに、当地域企業の活性化を図るためのコンテストを行った。応募総数は19件で、最優秀賞1件、優秀賞2件及び特別奨励賞2件を選出し、優秀なアイデアは当地域企業とマッチングを進めた。

(3) 産学共同開発事業

○収入決算額:3,204,000 円 (予算額:3,204,000 円)

●支出決算額:3,051,891 円 (予算額:3,204,000 円)

①非鉄材料の技術研究会(指導者1名、地域企業29社31名)

指導者に長岡技術科学大学 鎌土重晴教授を迎え、非鉄材料の製造

を行っている企業の訪問を多く行い、現場での課題やトピックスを認識した。また合わせてマグネシウム合金展伸材メーカーからの技術講演や、他地区連携体との交流を行うなど、全体で9回の研究会を実施し、会員企業へ最新の情報提供を行った。

②高合金材料に関する研究会(指導者1名、地域企業7社17名)

指導者に関西大学 北嶋弘一教授を迎え、航空機やタービンなどに用いられる難加工高合金の切削加工についての3回の研究会を行った。また最新のコーティング処理を行った工具の切削試験を行って工具寿命の比較や損傷メカニズム解明を行った。

③接合技術に関する研究会(指導者1名、地域企業24社28名)

指導者に長岡技術科学大学 宮下幸雄准教授を迎え、主にステンレス材料の溶接技術や接着・リベットなど各種接合技術の情報提供を行った。また、最近注目されているフェライト系ステンレス鋼のTIG溶接試験を行い、継手強度特性を評価した。

④自動化制御技術研究会(指導者1名、地域企業16社21名)

指導者に長岡技術科学大学 木村哲也准教授を迎え、制御の基本やロボット技術と、最新の考え方に基づく工場現場の安全技術について、5回の講演会及び工場見学を行った。

【機械設備利用状況】

設備名称	平成20年度	平成19年度
レーザーメーカー	33	-
走査型電子顕微鏡	15	-
高速度デジタルビデオカメラ	3	2
デジタルマイクロスコープ	11	17
立型マシニングセンタ	1	8
万能塑性加工試験機	6	7
D r . H I P 装置	87	50
雰 囲 気 熱 処 理 装 置	5	7
3次元デジタル計測装置	10	8
3次元CADシステム	5	1
F E M 解析システム	4	5
切れ味試験機(包丁・鋏)	2	0
合 計	182	105

4. デザイン企画事業

1. 収支決算額

- 収入決算額:20,828,000 円 (予算額:21,903,000 円)
(中小企業基盤整備機構補助金 3,350,000 円、市負担金 16,362,000 円、関東圏産業活性化センター負担金 300,000 円、事業収入 215,000 円、予備費 601,000 円)
- 支出決算額:18,633,710 円 (予算額:21,903,000 円)

2. 事業の成果

- ・商品企画、デザイン相談では 33 件の個別相談に対応。内 10 件はデザイナーデータベースを活用し、外部デザイナーへの取次ぎ、コーディネートを行った。
- ・当地域のデザイン性の高い商品の新規販路開拓を支援するため、首都圏の生活提案型見本市に出展、引合い件数 92 件と前年度に対し大幅な成果をあげた。また、当地域商品のデザイン性の高さをPRするため、Gマーク商品の首都圏展示会や他地域での展示を行った。
- ・地域のデザインマインド向上のため、2 回のギャラリー企画展示とフォーラムを開催、延べ 2,004 人の参加があった。
- ・提案性が高いヒット商品を生み出すため、新商品企画開発支援事業を開催。企業からの公募 3 テーマの商品コンセプト開発を行った。
- ・素形材産業の新価値創造、地域資源のブラッシュアップのため、外部専門家による、15 回の勉強会と 2 回のフォーラムを開催、延べ 686 人の参加があった。

3. 実施事業

(1) デザイン支援事業

- 収入決算額:12,148,000 円 (予算額:12,148,000 円)
- 支出決算額:10,981,217 円 (予算額:12,148,000 円)

①デザイン開発支援

1) デザイン開発支援

- ・内 容:地域企業が抱える商品企画、デザイン相談に対し、当センターデザイン専門家が個別対応し、助言を行った。内容により外部デザイン人材とのコーディネートを行った。
- ・相談件数:33 件(内、外部デザイナーへの取次ぎ 10 件)

2) 新商品情報の発信

- ・内 容:ライフスタイル提案型見本市「インテリアライフスタイル 2008」に出展。当センターが開発支援を行った新商品の情報発信と販路開拓を図った。(2 回目)
- ・開 期:平成 20 年 6 月 11 日～13 日
- ・会 場:東京ビッグサイト
- ・来場者数:27,390 名
- ・地域企業出展数:4 社 36 点
- ・引き合い件数:92 件(前年度:45 件)

3) 市場トレンド情報交流ワークショップの開催

- ・内 容:最新の市場トレンドを発信するGマーク(グッドデザイン賞) 2 次審査商品の一般公開イベント「グッドデザインコミュニケーション」に出展。当地域で過去 10 年間にGマークを受賞した商品を展示。来場者へのPRと情報収集を行った。
- ・開 期:平成 20 年 8 月 22 日～24 日
- ・会 場:東京ビッグサイト
- ・来場者数:41,000 人
- ・展 示 数:20 社 42 点

4) デザイン評価制度活用に向けた取組み支援

①デザイン評価制度取得支援

- ・内 容:地域のデザイン性の高さを実証するため、Gマーク(グッドデザイン賞)デザイン評価制度への取得支援及び PR を行った。
- ・搬出入代行申し込み件数:6社、13件
- ・受 賞 数:5社6件

②受賞品PR

『 GOOD DESIGN EXHIBITION SENSUDORI 』

- ・内 容:2008 年度グッドデザイン賞受賞商品の展示をし、県央地域のデザイン力を PR し、長岡地域へ県央地域のデザイン力のアピールを図った。
- ・会 期:平成 21 年 1 月 31 日～3 月 8 日
- ・会 場:シネマする街 千秋通り 2F ギャラリー(長岡市)
- ・来場者数:14,006 名

4. デザイン企画事業

5) デザインギャラリー企画展	
1) 企画展示・イベント	
名称 / 開期 / 内容	来場者数
『産地の素材と技術展』 平成 20 年 11 月 1 日～11 月 10 日 当地域及び隣県(山形、宮城、福島、富山)の伝統工芸品、伝統技術製品から、伝統的な製法による製品と、それらの新展開による製品 329 点を展示	1,149
『JIDA デザインミュージアムセレクション Vol. 9 新潟展～日本から世界へはばたいたモノたち～』 平成 21 年 3 月 17 日～3 月 26 日 デザインや技術革新にポイントを置いて選定された最新コレクションの展示と日本発のデザインで世界へはばたいた商品 58 点の展示	766
【トークイベント】 MUJI×*スノーピーク 『モノづくりの本質を極め、世界へはばたく』 平成 21 年 3 月 21 日 講師: 榊良品計画 企画デザイン室長 安井 敏 講師: 榊*スノーピーク 代表取締役社長 山井 太 パネルディスカッション 『モノづくり・デザインの本質とは?』 『世界の中での日本のモノづくり・ジャパンデザインの優位性とは?』 コーディネータ: 明星大学造形芸術学部 教授 浅井 治彦 パネリスト: 榊良品計画 企画デザイン室長 安井 敏 パネリスト: 榊*スノーピーク 代表取締役社長 山井 太	89
常設展示「Gマーク 2007 受賞商品」の展示 昨年度(2007)受賞したGマーク商品の展示	
常設展示「Gマーク 2008 受賞商品」の展示 本年度(2008)受賞したGマーク商品の展示	

2) 貸し出しギャラリー		
名称 / 開期 / 内容		
『全日本写真連盟第 7 回県支部写真展』 平成 20 年 4 月 18 日～20 日 写真の展示		
『アミューゼ作品発表展』 平成 20 年 9 月 13～15 日 写真の展示		
『キャノンフォトクラブ新潟県支部写真展』 平成 20 年 10 月 11 日～13 日 写真の展示		
『第 6 回 山田昌男写真技法講座生作品展』 平成 20 年 11 月 14 日～16 日 写真の展示		
『第 5 回 写団かじや写真展』 平成 20 年 11 月 20 日～24 日 写真の展示		
『第 53 回創象会作品発表展』 平成 20 年 12 月 5 日～7 日 絵画・造形の展示		
『県立三条テクノスクール修了作品展』 平成 21 年 2 月 6 日～2 月 8 日 三条テクノスクール(工業デザイン科・メカトロニクス科・生産システム科)の卒業制作課題作品の展示		
『平成 20 年度ジャパン・ツバメカトラリー・ハウスウェアデザインコンクール受賞作品展』 平成 21 年 3 月 3 日～12 日 平成 20 年度ジャパン・ツバメカトラリー・ハウスウェアデザインコンクール受賞作品及び審査対象作品を展示		
②地域資源を活かした地域ブランドづくりに向けた支援		
1) 県央デザイン団体の活動支援		
・つばめデザイン研究会事務局		
・三条デザイン研究会事務局		
2) 各地域の地域資源と技術の活用企画展の開催(GIAC 支援事業)		
・内 容: ※ 5) デザインギャラリー企画展参照		
(2) 新商品企画開発支援事業		
○収入決算額: 4,729,000 円 (予算額: 4,814,000 円)		
●支出決算額: 3,728,220 円 (予算額: 4,814,000 円)		
①「実践!! 新商品開発室」の開催		
地域企業における新商品開発の入口から出口までを継続的に個別支援し、競争力のある提案型新商品開発により、既存市場の拡大と新市場の開拓を目指した。		

4. デザイン企画事業

・内 容: 地元企業より公募したテーマを元に、商品開発研修を交えたワークショップを開催し、開発手法を学びながら、テーマを再構築し、首都圏ユーザーニーズ調査を経て、商品コンセプトの策定を行った。

・コーディネータ: (株)クルー 代表取締役 馬場 了

・期 間: 平成20年8月19日～平成21年3月23日(全13回)

・テーマ数: 3テーマ(インテリア用品・インテリア収納用品・キッチン用品)

(3) 地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業

○収入決算額: 3,951,000円(予算額: 4,941,000円)

●支出決算額: 3,924,273円(予算額: 4,941,000円)

・内 容: 素形材産業において新価値商品を作り出して行くため、地域資源をデザインの視点や外部経営資源を利用してブラッシュアップしながら、市場ニーズと地域集積技術のマッチングに向けたネットワークづくりの勉強会を行い、各講座ごとにテーマを決めて専門家講師による戦略分析と企業講師からの事例による講演を開催した。

・実施体制: 外部専門家及び行政機関等による企画委員会(16名)及びフォーラム実行委員会(6名)を設置した。

・開催内容:

オープンセミナー(基礎コース) 5回 延べ154人

ワークショップ ①素形材技術のブラッシュアップコース 5回 延べ126人

②製品化に向けた戦略策定コース 5回 延べ131人

県内広域フォーラム 1回 延べ150人

基調講演「地域の強みを世界に」

パネルディスカッション「ロボットの未来とデザイン」

地域企業間連携フォーラム 1回 延べ125人

特別講演「つくり手・売り手・買い手をつなぐ “ものづくり”」

パネルディスカッション「地域のものづくり、今とこれから！」

・期 間: 平成20年6月5日～平成21年2月20日 17回開催

・会 場: 新潟県県央地域地場産業振興センター 外3か所

・参加者数: 延べ686人

【燕三条ブランド構築事業】

1. 収支決算額

○収入決算額: 937,000円(予算額: 937,000円)

(予備費 937,000円)

●支出決算額: 828,870円(予算額: 937,000円)

2. 実施事業

(1) 燕三条ブランド検討委員会(委員数: 25名)

三条・燕地域の商工会議所や商工会、農協、観光協会などの代表や役員等で委員会を組織し、燕三条ブランドの方向性や分科会設置などの検討を行い、実行委員会から提案のあった方向性や分科会の組織構成について検討・承認を行った。

[開催日] 第1回 平成20年8月18日

第2回 平成20年9月30日

第3回 平成20年12月19日

第4回 平成21年3月30日

(2) 合同研修会の開催

検討委員と実行委員が「地域ブランド」に対する考え方などの共有化並びに理解を統一するための合同研修会を実施した。

[開催日] 平成20年9月30日

[テーマ] 地域ブランドの成功と失敗の分岐点とは

[講師] 東京理科大学専門職大学院 教授 生越 由美

(3) 燕三条ブランド実行委員会(委員数: 27名)

検討委員が所属する各種団体から推薦のあった委員で組織し、三条・燕両市の産業や歴史、農業、観光について勉強会を開催して情報の共有を図り、委員会の進め方や組織構成などの検討を行った。

平成21年度からは分科会を構成し、分科会毎に活動内容の検討及び活動計画の立案に取り組む予定。

[開催日] 第1回 平成20年9月30日

第2回 平成20年10月23日

第3回 平成20年11月17日

第4回 平成20年12月16日

第5回 平成21年1月19日

第6回 平成21年2月24日

第7回 平成21年3月25日

【県央地場産センター(本館) 大規模修繕工事】

1. 収支決算額

○収入決算額:275,205,000 円 (予算額:275,205,000 円)
 (高度化資金借入金 183,005,000 円、県負担金 14,979,722 円、普通借入金 77,000,0000 円、予備費 220,278 円)

●支出決算額:275,205,000 円 (予算額:275,205,000 円)

2. 工事概要

(1) 工 期:平成 20 年 7 月 1 日(着工)～12 月 25 日(竣工) (178 日間)

(2) 内 容:

①屋上屋根防水改修・補修工事

(本館棟、多目的大ホール棟、展示即売棟、中央棟) (計 6,679 ㎡)

②外壁改修・補修工事

(外壁タイル張替(約 19,000 枚)、全面洗淨他) (計 7,581 ㎡)

③キャノピー(車寄せ)改装工事

(全面張替、防水・シーリング施工、照明器具取替) (計 146 ㎡)

④5 階 総合研修室改修工事

(壁紙張替、天井塗装、入口建具取替、照明器具取替) (計 322 ㎡)

⑤4 階 大会議室改修工事

(壁紙張替、天井塗装、入口建具取替、照明器具取替) (計 219 ㎡)

⑥3 階 CAD/CAM 室改装工事

(床、壁、天井張替、間仕切り壁施工、エアコン 2 基増設) (計 162 ㎡)

⑦2・4・5 階 廊下改修工事

(床カーペット張替、壁紙張替、建具塗装) (計 157 ㎡)

⑧冷温水発生器交換・加湿器修繕工事

(冷温水発生器 6 基、冷却塔 2 基、加湿器 3 基交換 他)

⑨中央監視装置取替工事

(中央監視盤、火災報知複合盤、非常放送設備交換 他)

⑩レストラン厨房空調機取替工事

(冷暖房エアコン 4 基交換)

(3) 施工者(入札参加企業数):

①建築工事(13 社):㈱氏田組 (燕市分水あけぼの 1-1-72)

②機械設備工事 (6 共同企業体 14 社)

サンライフ・繁原・中越特定共同企業体

代表:サンライフエンジニアリング㈱ (三条市曲淵 3-2-15)

③電気設備工事(12 社):本間電機工業㈱ (三条市須頃 3-60)

④工事監理:燕市建築設計監理共同組合 (燕市吉田西太田 785-18)

食堂事業(特別会計)

1. 収支決算額

○収入決算額:63,175,990 円 (予算額:74,311,000 円)
 (事業収入 60,878,746 円、雑収入 2,297,244 円)

●支出決算額:64,286,880 円 (予算額:73,811,000 円)

2. 事業の成果

・事業収入については、昨年度より約 500 万円の減少となったが、その要因としては、パーティー売上の約 420 万円減少による影響が大きい。
 また、レストラン全体の利用者は約 700 人増であるが、一人当りの食事単価が低くなったことも、売上金額の減少になったと推測する。
 ・燕三条ブランド事業の一環として、地元の農産品生産者が食材を持ち寄る試食会を兼ねた懇親会を開催したところ、関係者から非常に好評を得た。
 ・平成 21 年 1 月より、店内営業は全面禁煙としたが、この点についても利用者からは好評であり、今後も最高の食事を提供できる雰囲気作りを進めていきたい。
 ・割り箸の価格高騰を機会に、環境(エコ)を配慮した箸のリユースを行い、お客様からも喜ばれている。

3. 実施事業

レストラン売上高の推移

(単位:円)

年 度	事業収入	雑収入	合 計
平成 20 年度	60,878,746	2,297,244	63,175,990
平成 19 年度	65,907,982	2,087,173	67,995,155